

スカウト

中野
劇団

スカウト

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

女

勇者

繁華街、ナンパの名所として有名な場所。人を待っている女、電話に出る。

女

もしもし？ はいはい。うん。さっき着いたところ。何か凄いなねここ。……さっきから何人も声掛けられてる。……芸能事務所のスカウトとか、ナンパとか。うん。そうなんだ？ 有名なの？ ここって。……ううん、私は声掛けられてないけど。……ううん大丈夫大丈夫、いいよここで。……イケメンだったらついて行こうかな、みたいなの？ (笑) そんな冒険できないって。……あ、うん。ゆっくりでいいからね。

はーい。

女、電話を切る。

そこへ勇者の格好をした男がぬっと現れる。

女
……。

勇者、女に接近。

勇者 ちよつといいですか。

女 すいません、待ち合わせしてるんで。

勇者 全然怪しい者じゃないんで。

女 ……？

勇者 実は私、勇者をやってるんですけど。

勇者、名刺を出す。

女 いえ結構です。

勇者 まだ何にも言っていないですけど。

女 ごめんなさい、コスプレとか興味ないんで。

勇者 コスプレって何ですか？

勇者の格好をした男に絡まれているのを周囲に晒すのが恥ずかしい女。更に近づく勇者。

女 あの、恥ずかしくないんですか？

勇者 勇者ですから。

女 ……。

勇者 ……冒険、しませんか？

女 え？

挙動不審な勇者。

勇者 魔王を倒しに行くんですけど。一緒にどうですか？

女 どうって言われても。

勇者 もしかして既にパーティ組んでたりしますか？

女 パーティ？

勇者 組んでない？ あ、良かった。

女 すいません。急いできますんで。

勇者 ちよつとだけお話聞いてくれませんか。あの、五分でいいんです。

女 いえ、ホントにあの。

勇者 じゃあ二十分だけ。

女 何で増えるんですか。

勇者 やっぱり似てるな……。

女 え？

勇者 あの、失礼ですけど、お母さん、酒場で働いてませんか？

女 え？ いえ。

勇者 違うか。いえね、昔、そっくりな女の人がいたんです。

女 私にですか？

勇者 いえ、私に。

女、その場を去ろうとするが勇者が腕を掴んで行かせない。

女 あの、何なんですか。

勇者 勇者です。

女 警察呼びますよ？

勇者 ……召喚でですか？

女 は？

勇者 あなた召喚士とかどうですか？ いいと思いますよ。

女 何言ってるんですか？

勇者 前から召喚士を仲間にしたかったんです。

挙動不審で目を合わさない勇者。

ちよっとした恐怖とパニックに見舞われる女。

- 勇者 夜中に口笛吹いたら、蛇が来るって、小さい頃お母さんに教わりませんでしたか。
- 女 え？ 何なんですか急に？
- 勇者 教わりませんでしたか。
- 女 え？
- 勇者 教わりましたよね。
- 女 ……ええ。
- 勇者 白い蛇って見たことありますか？
- 女 え？
- 勇者 全身白い蛇。
- 女 いえ。あの、何の話ですか？
- 勇者 白い蛇が必要です。
- 女 白い蛇？
- 勇者 魔王の居城へ通じる道を開くのに必要なんです。白い蛇何とかしてくれませんか？
- 女 ごめんなさい、ちよつとあの。怖いです。

勇者 白い蛇。

女 すいません。ちょっとわからないです。

勇者 蛇って知ってますか？

女 蛇は知ってますよ。

勇者 それの白い版です。

女 それはわかりますけど。

勇者 白い蛇が必要なんです。

女 いや、必要って言われても。そんな。

勇者 白い口笛を吹いてみてくださいませんか。

女 ……は？

勇者 白い口笛。

女 さっきから言ってる意味が全然わからないんですけど。

勇者 白い蛇は白い口笛じゃないですか？

女 え？ いや、あの。

勇者 口笛を吹いたら蛇が来るんだから、白い口笛を吹いたら白い蛇が来ますよね？

女 え？ 何なんですか。

勇者 白ってわからない？

女 白はわかります。

勇者 口笛は？

女 だから口笛も知ってます。

勇者 じゃあ全部わかってますよね。え？ 僕のことからかかってます？

女 こっちの台詞です。口笛に白いとかってあるんですか。

勇者 あるんですかって。じゃあ戦争にどっちが正しいとかありますか！

女 えええ？ 何なんですか。

勇者 (イラッ) あの、怒ってます？

女 いえ、怒ってないですけど。怒ってるの、そっちじゃないですか。

勇者 お願いします。あなたしかいないんです！

女 今、適当に歩いているの呼び止めただけじゃないですか。

勇者 あなた適当に歩いてたんですか。

女 いや、歩いているのを適当に。

勇者 適当に歩いてたんですか！

女 何で怒鳴るんですか！

勇者 怒鳴ってすいませんでした！

間。

勇者 …怒鳴ってすいませんでしたって怒鳴ってすいませんでした……。

女 ……。

勇者 本当にやり甲斐があると思うんです。うちの会社。

女 会社？

勇者 それに旅行とか好きだったら面白いと思います。

女 いや、あの。

勇者 あと、全国の教会と提携してて、万一何かあったときは、復活させてもらえるし。勿論そんな万一が万一にも起こらないようにあなたのごことは命に変えてもお守りしますのです。

女 いえもうちゃんとした仕事に就いてるんで。

勇者 お願いします。こっちだっていやいや勇者やってるんです。

女 だったらやらなきゃいいじゃないですか…。

勇者 世界がどうなってもいいんですか？

女 ……いいです。

勇者 これだけ言っても「心」という名のクリスタルは反応しませんか？

女 気持ち悪いです。

勇者 あなたのレベル多分まだ一か二だと思っんですけど？

女 何ですかレベルって？

勇者 エルフイLVです。…私と組んだら、一月で二十にしてあげます。

女 本当に勘弁して下さい。

勇者 お願いします。報酬は最初は月八十万しかないんですけどレベルに応じて

て上がっていきまますんで。

問。

女 八十万？

勇者 ええ。

女 単位は？

勇者 円です。家族や友達に思いつきり引かれること考えたら、安いと思いますが。

女 …… 残業手当ては？

勇者 完全支給です。あと賞与が年2回4ヶ月分プラス出来高です。

女 …… 何処か落ち着いて話できるところに行きませんか？

勇者 じゃあ、その喫茶店に。

勇者と女、去る。終わり。